

講義4 「文化的アイデンティティと多様性を高める世界遺産」

シャロン・サリバン（文化遺産管理コンサルタント）

要旨

本講義は、世界遺産条約が加盟国の文化的アイデンティティ及び文化的多様性をいかに促進できるかを論じる。

まず最初に、当初は限られた効果しか持たなかった世界遺産システムの初期の構想について簡単に述べる。そこには、ヨーロッパ中心主義、自然的価値と文化的価値の分離、遺跡の重視、世界遺産管理における普遍的価値と地域的価値の非関連性、などが含まれる。

次に、世界遺産システムの漸進的な変化について説明する。この変化により、世界遺産が文化的アイデンティティ・多様性の促進に一層貢献できるようになったのであるが、この概念が自国の生活と発展に重要であることに気づいた加盟国により変化はもたらされた。

オーストラリアからの二つの事例研究 世界遺産であるウルル - カタ・ジュタ国立公園と、世界遺産候補地であるオーストラリア囚人跡地(Australian Convict Site) を取り上げ、現在の世界遺産の指定・管理システムが文化的アイデンティティ及び文化的多様性を高めている肯定的側面とそれが文化観光及び文化教育にどのような結果を及ぼしているかを提示する。